

(0)

## スタータ

## 作動

- ◆イグニッション・スイッチを START にすると・・・
  - 1. パッテリ電圧がスターメ内のホールディング・コイル、ブール・イン・コイルに加えられる。(インヒビタ・スイッチが OFF (P.N レンジ以外) 又は、新娘している場合に加えられない。)
  - 2. ホールディング・コイル、ブール・イン・コイルに電気が流れ、磁力が発生する。



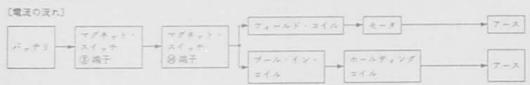
## 季 考

- ・モータ内部に電流が流れても小電流である点。モータは殆んど回らない。
- 3. 差力により、マダキット・スイッチ内のブランジャが接引される。同時に、ビニャン・ギアは、ドライブ・ブレート・ギアとかふ合う方向に移動させられる。(ビニャン・ギアは、シアト・フィークにてブランジャと連続されている。)
- 4. ビニオン・ギアがドライブ・ブレート・ギアとかみ合うと同時に、役引されたブランジー技術に取付けられているメーン コンタクトが ⑤ 増子と ② 増子とを接続するため、キータ内面へ大電流が流れる。 ロ (電流の流れ)



## 歩 考

- ・ブール・イン・コイル両端には、バッテリ電圧が加わる為、ブール・イン・コイル中には電流が流れない。従ってクランキング中ブランジャは、ホールディング・コイルの磁力のみで保持される。
- ◆イグニッション・スイッチを ON に戻すと…
  - 電流は、ブール・イン・コイル、ホールディング・コイルを通ってアースへ流れる。(イダニッション・スイッチからの 電流は遮断される。)



2. 南コイルに流れる電便の向きは互いに逆になり、南コイルに発生する田力は互いに打ち消し合う方向に発生する。この結果、ブランジャを吸引する田力がなくなり、リターン・スプリングの働きによりブランジャ、ビニエン・ギアは元の位置に戻される。

オルタネータ

\* オルタキータは英麗に搭載されている電気語品に直透電圧を供給するとともにパッテリを充稿するものである。

まっまネータから供給される重定電圧出力は、オペタネータ内のIC レギュレータにより一定出力に制御される。

◆ エンジン停止時 (イグニッション・スイッチを ON にする)

2. フィールド・コイル、IC レギュレータを通って電流が流れる。 1. バッテリ種田がオルタキータの ① 端子に加えられる。(⑪ 補子、③ 端子には常野バッテリ電圧が加えられている。) ローニング・ランフ点江

[電流の流れ]



◆日ソンツ福製領

1. オルタネータ・ブーリと同種上にあるロータが回転する事により、ステータ・コイルには交流電圧が発生し、6 個のダイ オードにより直流に整茂された後、オルタネータ 回 端子へ出力される。

ロータ内部には、フィールド・コイルが内蔵されており、ロータはコイルに電流を漢す事により発生する協力をうけて 電圧は、コイル中で臨石を回すと発生する。オルタネータでは、コイルに相当するのがステータ・コイルであり、臨石 に相当するのがロータである。

田石 (電田石) となる。

\*フィールド・コイルへ供給する電流は、オルタネータ目身で行う。

「電流の流れ」



2. 又、ダイオード・トリオにも直流電圧が出力され、エルタエータ ① 端子の電圧がパッテリ電圧以上となる為、ワーニン グ・ランプには延迟が流れなくなる。 ⇒ ワーニング・ランフ羽灯

3. オルタネータ ⑩ 清子電圧(は、エンジン回転数 (ロータ回転数) や電型石の磁力 (フィールド・コイルに流れる電流)により 左右される。実際は、エンジン回転数によって変化した電圧分をフィールド・コイルに現れる電流を変化させ補正する。

能增 回転数上昇 (発生電圧上昇)のフィールド・コイルに流れる電流を減少させ発生電圧を落す。 回転数低下(発生物圧下降)のフィールド・コイルに渡れる電流を増大させ発生電圧を上げる。

北北

・フィールド・コイルに流れる電流は、IC レギュレータにより制御される。